

**臨床福祉専門学校**  
**柔道整復学科 平成27年度 第一回教育課程編成委員会 議事録**

日時：平成27年10月21日（水）16：00～17：30

場所：臨床福祉専門学校 202 教室

出席委員及び所属

豊島 公（東京都柔道整復師会 北多摩支部参与）  
中島 泰二（株式会社プロックス ディサービスパーク施設長）  
岡部 洋興（鶴川接骨院院長・非常勤講師）  
藤巻 有久（銀座リハビリテーションクリニック・非常勤講師）  
中島 嘉和（柔道整復学科 学科長）  
荒井 一彦（柔道整復学科 副学科長）  
萬崎 保志（事務部長）  
樋口 豊朗（事務局 教務課）

1. 学科長挨拶（教育課程編成委員会開催の趣旨説明）

来年度から新カリキュラムとなるが、「教育的内容」と「外部企業と連携した演習・実習」の実施内容・評価方法について、実際に現場で働いている委員の意見を反映して、カリキュラムの中身を再構築していく事を目的とする。

2. 平成28年度のカリキュラム改訂について

※資料「カリキュラム新旧対照表」「応用分野詳細」を元に、カリキュラム変更の目的と新たに設ける応用分野について説明

（意見交換）

藤巻・中島（泰）：

応用分野を導入する事により、各科目の時間数が短くなった。昨今の学生の学力低下の傾向を鑑みるに、問題はないのか？

⇒ 応用分野を除く各分野に関しては、指定規則に定める時間数に戻し教科書レベルを主とした中身を扱う。その上で、応用分野の中で基礎力養成・国家試験対策を設けるなど、国家試験合格に必要な学力を身につけさせるために、必要な内容を再構成したのが今回の趣旨。時間数減により内容が薄くなったわけではない。

藤巻・豊島：

解剖学・生理学はあらゆる科目の基礎に直結する。応用講座Ⅰ「基礎力養成講座」の中身である1年次の解剖学・生理学の復習は1年次では復習の実効性が薄いと思われるので、2年次にも行う必要があるのでは？

⇒ あらゆる科目の基礎となる「解剖学・生理学」については、1年次の正規科目とそれ以降の復習を目的とした科目とをどのような配分で実施できるか、実施する学年も併せて学科で再検討し、次回の委員会で報告する。

岡部：

応用分野の「国家試験対策」は筋・骨・神経等の基礎医学の中身を重点的に行う必要がある。さらに国家試験の問題を基準とした中身を改めてリクエストしたい。他の科目担当の講師にも、国試の問題を授業の中に織り込んで扱うことを依頼しても良いのではないか？

⇒ 学生の目線・意識の向上を促す為に、過去問題を中心とした「国家試験対策」を再検討する。

岡部：

応用講座Ⅱ「未来職場見学」については、対象である1年だけでなく、動画を撮り学年全体で共有する事で職業意識を全般的に高める事にも繋がり、さらにその動画を繋げてまとめることで、学校の授業紹介として有用な広報ツールになるのではないか？

⇒ とてもよいアイデア。学生の意識向上だけでなく、これから入学を目指す学生に対しても具体的なイメージを持たせる事ができる。前向きに検討する。

藤巻：

応用講座Ⅱ「未来職場見学」について、学習意欲を喚起するためには入学後の出来るだけ早い時期に行うことが効果を生むと考える。また、施設によって提供しているサービスや取り組みは様々なので、単一の施設に留まらず、多様な施設で行う方がより効果的。江東区内の施設を希望するのであれば、紹介も可能である。

⇒ 現時点では、今年度行った施設で充足との考えだったが、来年度に科目の一つとして行う場合の細かな中身までは精査ができていない。学科に持ち帰り、どこまで施設の幅を広げられるか検討する。

岡部：

学生の学習状況は保護者に知らせているのか？ また、本人が接骨院を利用したこともない学生が入学したり、柔道整復師がどんな職業か理解していない親も多いので、学生本人だけでなく親にも学校の教育内容などを理解してもらう必要があると考えるが？

⇒ 現在、保護者に対しては、担任から学生の出欠席の状況などを知らせている。また、折しも全学的に保護者に対する情報提供の必要性が議論され、来年4月には保護者説明会を開催することが決まっている。

(まとめ)

※第二回会議への課題（学科で検討すべきポイント）

- ① 「応用講座Ⅰ」の基礎力養成（解剖学や生理学などの基礎医学系科目）の実施形態について再検討
- ② 「応用講座Ⅱ」について、配置学年である1年生以外の学年への状況共有と、対象拡大の検討
- ③ 「応用講座Ⅱ」について、実施時期の確定と、複数施設への拡大（実施形態の確定化）の検討。拡大する場合、藤巻先生への助力を依頼するかどうかの判断

以上